

Emacs29.1 導入

Marco (Miniature Schnauzer)*

平成 36 年 1 月 4 日

目次

1	ダウンロードとインストール	2
2	設定	3
2.1	設定ファイル init.el と環境変数 HOME	3
2.2	現在運用している Emacs26.3 との切り替え	4
2.3	29.1 では 26.3 の日本語設定が動かない	5
2.4	メニューの Options から設定	6
2.5	起動メッセージ, タブ幅, 時刻表示形式, 列番号	7
2.6	設定前後比較	8
3	diary	9
4	パッケージのリポジトリ melpa	10
5	howm	11
5.1	インストール	11
5.2	実行	11
5.3	howm は消えていく?	11
6	ak2pr でバッファを印刷	11
6.1	ak2pr のインストール	11
6.2	Ghostscript のインストール	12
6.3	印刷の実行と問題点	12
7	L^AT_EX	13
7.1	L ^A T _E X のインストール	13
7.2	YaTeX のインストール	13
7.3	PDF ファイルビューア Sumatrapdf との連携	15
7.3.1	SumatraPDF のインストール	15
7.3.2	SumatraPDF の設定 (inverse search の設定)	16

*※ MARCO のサイトへ <http://minischna.starfree.jp/>

7.3.3	Emac 設定ファイル init.el の設定 (SumatraPDF を起動)	16
7.3.4	Emac 設定ファイル init.el の設定 (forward search の設定)	17
7.4	TeX ファイルを書く上での注意	17
7.4.1	jarticle の代わりに ujournal	17
7.4.2	文字コードは UTF-8	18
8	helm	18
8.1	インストールと設定	18
8.2	参考	18
8.2.1	旧 helm の設定ではエラー	18
8.2.2	最小ではない設定	19
9	起動時の画面サイズをコンピューターごとに分岐させる	20
9.1	Emacs 設定ファイル init.el 内でのコンピューター名	20
9.2	Emacs 設定ファイル init.el への記述	20
10	Org-mode	21
10.1	インストール	21
10.2	設定ファイル init.el への記述	21
10.2.1	Org ファイルの場所	21
10.2.2	Org-capture の設定	22
10.2.3	メモ (notes.org ファイル) を見る設定	22
10.2.4	行を折り返す設定	22
10.2.5	Org-refile の設定	22
10.2.6	ToDo の設定	23
10.3	使い方メモ	24
10.3.1	コマンド	24
10.3.2	リンク	24
	参考文献	25

1 ダウンロードとインストール

Emacs29.1 の windows 版がある場所

Index of /pub/GNU/Emacs/windows/Emacs-29

<https://ftp.jaist.ac.jp/pub/GNU/Emacs/windows/Emacs-29/>

から

Emacs-29.1.1-installer.exe

をダウンロードした。


実行しようとする

Windows によって PC が保護されました

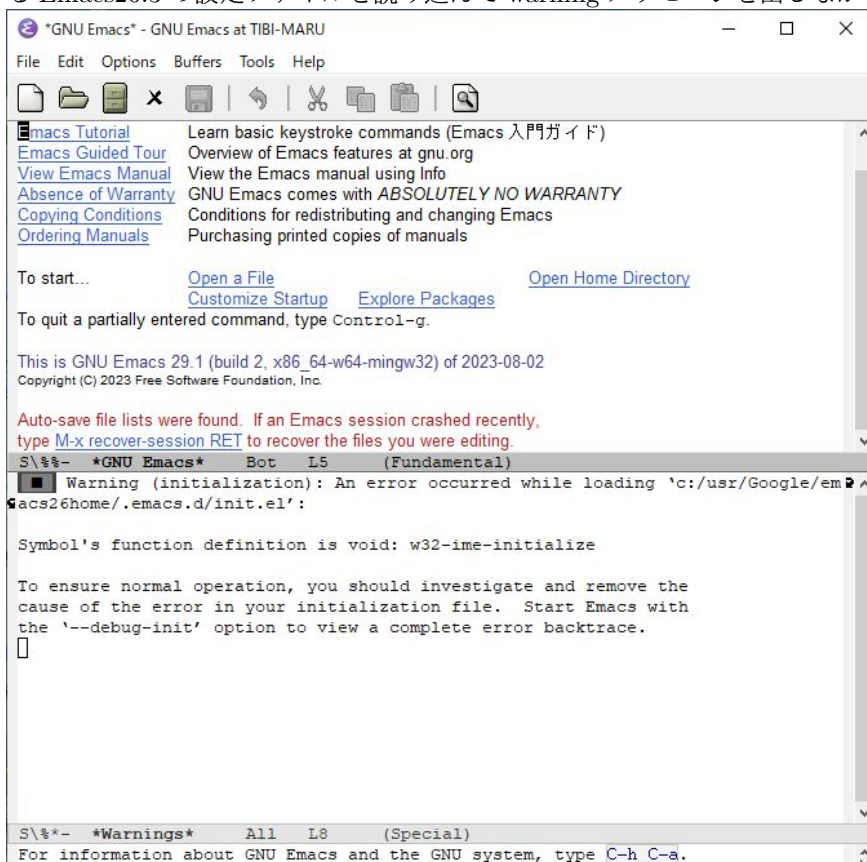
Microsoft Defender SmartScreen は認識されないアプリの起動を停止しました。このアプリを実行すると、PC が危険にさらされる可能性があります。

[詳細情報](#)

というメッセージウインドウが表示されたが「詳細情報」-「実行」を選択してインストールが完了した。

windows スタートメニューに Emacs のショートカット（リンク先は runEmacs.exe） が追加された。

起動すると Emacs26.3 がすでにインストールされていたため、環境変数 HOME に設定されている Emacs26.3 の設定ファイルを読み込んで warning メッセージを出しながら動き出した。



```
*GNU Emacs* - GNU Emacs at TIBI-MARU
File Edit Options Buffers Tools Help
[Icons]
Emacs Tutorial Learn basic keystroke commands (Emacs 入門ガイド)
Emacs Guided Tour Overview of Emacs features at gnu.org
View Emacs Manual View the Emacs manual using Info
Absence of Warranty GNU Emacs comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY
Copying Conditions Conditions for redistributing and changing Emacs
Ordering Manuals Purchasing printed copies of manuals

To start... Open a File Open Home Directory
Customize Startup Explore Packages

To quit a partially entered command, type Control-g.

This is GNU Emacs 29.1 (build 2, x86_64-w64-mingw32) of 2023-08-02
Copyright (C) 2023 Free Software Foundation, Inc.

Auto-save file lists were found. If an Emacs session crashed recently,
type M-x recover-session RET to recover the files you were editing.

S\*\*- *GNU Emacs* Bot L5 (Fundamental)
Warning (initialization): An error occurred while loading 'c:/usr/Google/em
acs26home/.emacs.d/init.el':

Symbol's function definition is void: w32-ime-initialize

To ensure normal operation, you should investigate and remove the
cause of the error in your initialization file. Start Emacs with
the '--debug-init' option to view a complete error backtrace.
[]

S\*\*- *Warnings* All L8 (Special)
For information about GNU Emacs and the GNU system, type C-h C-a.
```

2 設定

2.1 設定ファイル init.el と環境変数 HOME

Emacs が各種設定用ファイルを置くディレクトリを

C:\usr\Google\Emacs29home

にすることにし、環境変数 HOME にこのディレクトリを設定する。

設定ファイル init.el を

```
C:\usr\Google\Emacs29home\.Emacs.d
```

に作成する。

2.2 現在運用している Emacs26.3 との切り替え

現在 Emacs26.3 を使うために 26.3 用に環境変数 HOME を C:\usr\Google\Emacs26home に設定している。

Emacs29.1 の設定を試すには

1. 環境変数 HOME を 29.1 用に変更する。
2. Emacs29.1 を起動し、設定ファイルによる動作を確認する。
3. Emacs29.1 を終了し、環境変数 HOME を 26.3 用に戻す。

という手順になる。

そこで、環境変数を変更するバッチファイルを作成した。

- 環境変数を 29.1 用に変更するバッチファイル

バッチファイル 1: HOME29.bat

```
1 setx HOME C:\usr\Google\Emacs29home
```

(バッチファイル終了後に環境変数が設定されるように setx を使用)

- 環境変数を 26.3 用に戻すバッチファイル

バッチファイル 2: HOME26.bat

```
1 setx HOME C:\usr\Google\Emacs26home
```

- 環境変数が正しく変更されているか確認するためのバッチファイル

バッチファイル 3: 環境変数 HOME を確認.bat

```
1 set HOME
2 pause
```

- Emacs29.1 を実行した後、環境変数をもとに戻すバッチファイル

バッチファイル 4: runEmacs.bat

```
1 echo off
2 rem 環境変数HOMEが29.1用に変更されているかチェック
3 if %HOME%==C:\usr\Google\Emacs26home (
4     echo 先にHOME29.batを実行して環境変数HOMEを設定してください.
5     pause
6 ) else (
```

```

7   rem runEmacsを実行
8   C:\Program_maru\Emacs\Emacs-29.1\bin\runEmacs.exe
9   rem HOMEをEmacs26用に戻す
10  echo 環境変数を元に戻します.
11  pause
12  setx HOME C:\usr\Google\Emacs26home
13 )

```

※ 環境変数の変更や Emacs の起動を一つのバッチファイルにまとめて

```

1 call HOME29.bat
2 C:\Program_maru\Emacs\Emacs-29.1\bin\runEmacs.exe
3 setx HOME C:\usr\Google\Emacs26home

```

では環境変数が Emacs に引き継がれなかった。

2.3 29.1 では 26.3 の日本語設定が動かない

Emacs26.3 の日本語設定を 29.1 の設定ファイル init.el にコピーしてみたら動かない、またはエラーになる。

今のところ不便な点はつぎのとおり。

- IME の状態がモードラインに表示されない。
- 日本語入力時にカーソルの色が変わらない。
- タワーパソコンでかな漢字変換確定前のサイズが確定後のサイズと合わない。
フォントサイズを 11pt にして我慢することにした。(2.4 節)
- 小型ノートパソコン OneMix3Pro でかな漢字変換確定前のサイズが小さすぎて見えず、使いものにならない。
IME を「Microsoft IME」にすると候補を普通のサイズで複数表示してくれるので使えるようになった。しかし、表示がうるさい。

ソースコード 5: エラーになる 26.3 の設定

```

1 ;; IMEの初期化
2 (w32-ime-initialize)

```

ソースコード 6: 動かない 26.3 の設定

```

1 ;; Windows IME
2 (setq default-input-method "W32-IME")

```

```

3
4 ;; IME状態のモードライン表示
5 (setq-default w32-ime-mode-line-state-indicator "[Aa]")
6 (setq w32-ime-mode-line-state-indicator-list '("[Aa]" "[あ]" "[Aa]"))
7
8
9 ;; 日本語入力時にカーソルの色を変える設定
10 (add-hook 'w32-ime-on-hook '(lambda () (set-cursor-color "White")))
11 (add-hook 'w32-ime-off-hook '(lambda () (set-cursor-color "DarkGray")))
12
13 ;; ミニバッファに移動した際は最初に日本語入力が無効な状態にする
14 (add-hook 'minibuffer-setup-hook 'deactivate-input-method)
15
16 ;; isearch に移行した際に日本語入力を無効にする
17 (add-hook 'isearch-mode-hook '(lambda ()
18                                 (deactivate-input-method)
19                                 (setq w32-ime-composition-window (minibuffer-
20                                                                    window))))
20 (add-hook 'isearch-mode-end-hook '(lambda () (setq w32-ime-composition-window
21                                                    nil)))
21
22 ;;@ yes or no の入力をy or n に
23 (fset 'yes-or-no-p 'y-or-n-p)

```

2.4 メニューの Options から設定

Emacs を起動してメニューの Option から設定した。

1. Show/Hide

- (a) Tab Bar を ✓。
- (b) Fringe
 - i. Empty Line Indicators を ✓。
 - ii. バッファの境界をウィンドウの左に表示 Buffer Boundaries
 - A. In Left Fringe を ・。
- (c) Time,Load and Mail を ✓。
- (d) Size Indication を ✓。
- (e) Line Numbers in Mode Line を ✓。
- (f) Column Numbers in Mode Line を ✓。
- (g) Line Numbers for All Lines
 - i. Globsl Line Numbers Mode を ✓。

ii. Absolute Line Numbers を 。

2. Set Default Font...

フォント名：MS ゴシック，スタイル：標準，サイズ：かな漢字変換の確定前サイズに合わせて 11 を選択。

3. Save Options

クリックして設定ファイル init.el へ書き込む。

4. Customize Emacs

(a) Custom Themes

wombat に ✓。

画面内の [Save Theme Settings] をクリックして設定ファイル init.el へ書き込む。

Emacs のメニュー Option で init.el へ保存された設定

```
1 (custom-set-variables
2   ;; custom-set-variables was added by Custom.
3   ;; If you edit it by hand, you could mess it up, so be careful.
4   ;; Your init file should contain only one such instance.
5   ;; If there is more than one, they won't work right.
6   '(column-number-mode t)
7   '(custom-enabled-themes '(wombat))
8   '(display-time-mode t)
9   '(global-display-line-numbers-mode t)
10  '(indicate-buffer-boundaries 'left)
11  '(indicate-empty-lines t)
12  '(size-indication-mode t)
13  '(tab-bar-mode t))
14 (custom-set-faces
15   ;; custom-set-faces was added by Custom.
16   ;; If you edit it by hand, you could mess it up, so be careful.
17   ;; Your init file should contain only one such instance.
18   ;; If there is more than one, they won't work right.
19   '(default ((t (:family #("MS ゴシック" 0 7 (charset cp932-2-byte)) :foundry
    "outline" :slant normal :weight regular :height 113 :width normal))))))
```

2.5 起動メッセージ，タブ幅，時刻表示形式，列番号

- Emacs 起動時に起動メッセージを表示しないようにする。
- タブの幅を 4 にする。
- 時刻の表示形式を 24 時間表示にする。

- 列番号がデフォルトでは 0 から始まるので、1 からに変更する。

以上の設定のため、設定ファイル `init.el` に次を追加した。

ソースコード 7: `init.el`

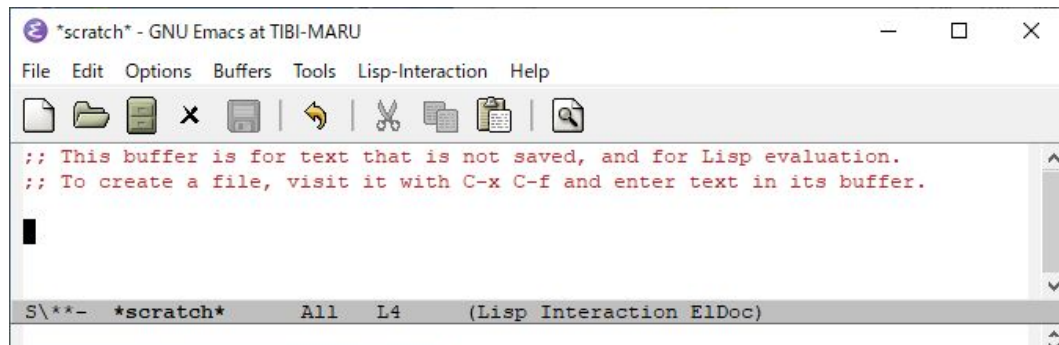
```

1 ;; -----
2 ;; 起動メッセージの非表示
3 (setq inhibit-startup-message t)
4
5 ;; -----
6 ;; タブ幅を 4 に変更
7 (setq-default tab-width 4)
8
9 ;; -----
10 ;; 時刻を24時間表示に
11 (setq display-time-24hr-format t)
12
13 ;; -----
14 ; 列番号を1から始める
15 (setq column-number-indicator-zero-based nil)

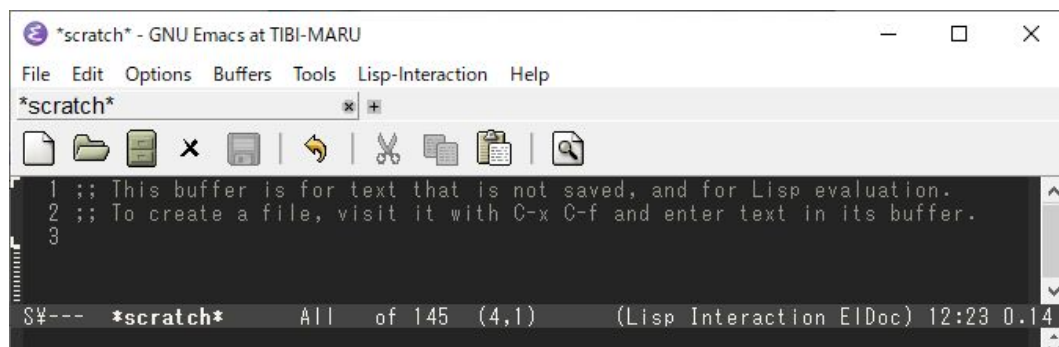
```

2.6 設定前後比較

- before



- after



3 diary

誕生日と年齢や記念日とその回数を表示するため diary を設定する。

1. ダイアリーファイル diary を作成してディレクトリ ~/.Emacs.d に置く。

GNU Emacs Manual[1] から引用

ダイアリーファイル (diary file) とは、特定の日付に関連付けられたイベントを記録するファイルです。ダイアリーファイルの名前は、変数 diary-file により指定されます。デフォルトは ~/.Emacs.d/diary ですが、古いバージョンの Emacs との互換性のため、~/diary が存在する場合は、それを使用します。

ダイアリーファイルの各エントリーは、1つ以上の行からなる1つのイベントを記述します。エントリーは、常に左端の日付指定で開始されます。エントリーの残りの部分は、イベントを説明するテキストです。エントリーが複数行の場合、2行目以降はそれが前のエントリーの継続行であることを示すために、空白文字で開始しなければなりません。有効な日付で開始されておらず、前のエントリーの継続行でもない行は無視されます。

起動時に diary ファイルにある当日の内容を表示する。日付にワイルドカード "*"/*" を使うことで起動時に毎回 "*"/*" 後の内容を表示できる。

ソースコード 8: diary

```
1 -----記念日の書式-----
2 %(diary-anniversary 11 25 2015) ミニシュナ誕生日 %d 歳だよーん
3 %(diary-anniversary 5 1 2016) なんとか記念日 %d 回目だよ〜ん
4
5 -----毎年表示される書式-----
6 5/2 ○○誕生日
7 11/25 □□誕生日
8
9 -----毎日表示される書式-----
10 */* メモでも書いておく？
11   △△について
12   なんとかかんとか
```

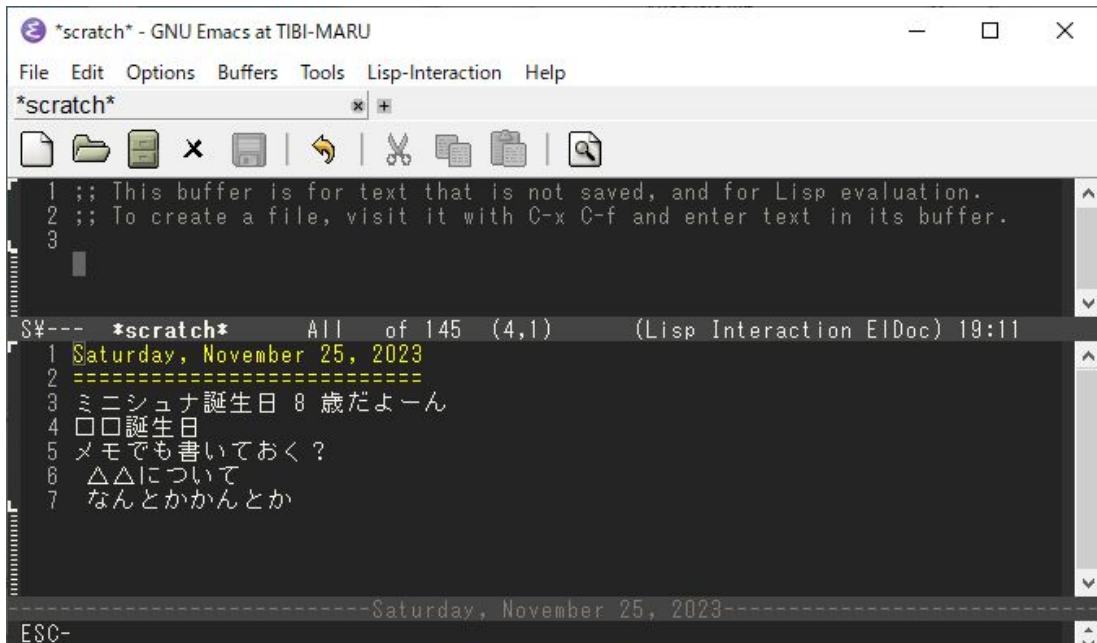
2. 設定ファイル init.el に

ソースコード 9: init.el に追加

```
1 (diary)
```

を追加する。

11月25日に Emacs を起動すると、11月25日に該当する内容が表示される。記念日の書式では回数を数えてくれる。



4 パッケージのリポジトリ melpa

パッケージのリポジトリ (保管場所, 倉庫, 貯蔵庫) である melpa をパッケージ管理ツール package.el に追加する。

「Emacs の package.el のリポジトリに MELPA を追加する」より引用 [2]

安定版のリポジトリを追加するには .Emacs.d/init.el に次のような記載を追加します。

```
(when (require 'package nil t)
  (add-to-list 'package-archives
    '("melpa-stable" . "https://stable.melpa.org/packages/"))
  (package-initialize))
```

安定版以外も含むリポジトリを追加するには次のように記載を追加します。

```
(when (require 'package nil t)
  (add-to-list 'package-archives
    '("melpa" . "https://melpa.org/packages/"))
  (package-initialize))
```

設定ファイル init.el に安定版のコードを記述して Emacs を起動した。C-h v package-archives をタイプして

Its value is

```
((("melpa-stable" . "https://stable.melpa.org/packages/")
  ("gnu" . "https://elpa.gnu.org/packages/")
  ("nongnu" . "https://elpa.nongnu.org/nongnu/")))
```

が表示され、melpa の追加が確認できた。

5 howm

書きちらかし指向メモツール howm (Hitori Otegaru Wiki Modoki, 一人お手軽 wiki もどき) を入れる。

5.1 インストール

Emacs を起動し `M-x package-install<RET>howm<RET>` で howm1.5.0 が melpa からインストールされた。

設定ファイル `init.el` に次を記述する。¹

```
1 ;,@ howm
2 ;case 2: はじめて C-c , , した時に読み込む
3 ;(setq howm-menu-lang 'ja)
4 (global-set-key "\C-c,," 'howm-menu)
5 (autoload 'howm-menu "howm" "Hitori Otegaru Wiki Modoki" t)
6 (setq howm-directory "c:\\usr\\google\\home\\howm" );メモを置く場所
```

5.2 実行

howm の実行は「`C-c , ,`」

5.3 howm は消えていく？

ネットで検索すると howm のサイトが見つからない。

`init.el` へ設定を書くための参考と、使い方の例が見つからなくなってしまった。

howm がなくなるのならば Emacs でのメモ書きツールを別のものへ移行しなければならないが、howm で書きちらかしたメモが多数あるのでとりあえず入れておいた。

6 ak2pr でバッファを印刷

Windows10 で Emacs から WiFi 接続のプリンタへ出力する方法がわからないので、とりあえず `ak2pr.exe` を介して印刷する。

6.1 ak2pr のインストール

`ak2pr` は過去のものとなったようで、Vector にある `ak2pr-2.5-bin.tar.gz` 以外はダウンロードできるものを見つけられなかった。

インストールは展開してできる `ak2pr` フォルダを適当な場所に置くだけだが、今回はすでにインストールしてある `ak2pr-2.6-bin.tar.gz` を使うことにした。

設定ファイル `init.el` へ次を追加する。

¹26.3 では `(setq howm-menu-lang 'ja)` も書いていたが、不要になった (?)

ソースコード 10: init.el へ追加

```
1 ;; ak2prで印刷
2 (setq lpr-command
3       (expand-file-name "C:/Program_maru/ak2pr/bin/ak2pr.exe"))
4 (setq lpr-switches '())
5 (setq lpr-add-switches t)
6 (setq lpr-command-switches '())
```

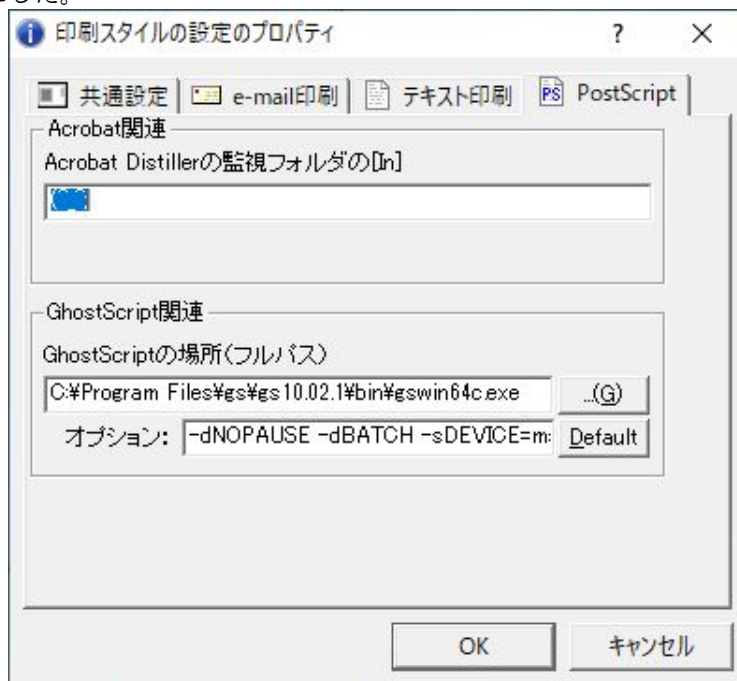
ak2pr の設定は Windows タスクバーにある ak2prServer を右クリックして「ページ設定」から行う。

タスクバー上に ak2prServer がないときは ak2prSV.exe を実行すると ak2prServer が現れる。

6.2 Ghostscript のインストール

<https://ghostscript.com/releases/gsdnld.html> から Ghostscript 10.02.1 for Windows (64 bit) をダウンロードし、インストールする。

ak2pr の設定で「Ghostscript の場所」と「オプション」を設定する。「オプション」は Default にした。



6.3 印刷の実行と問題点

M-x print-buffer² またはメニューから「File」-「Print」で印刷できるようになった。ただし、バッファの文字コードがシフト JIS でないと文字化けする。文字コードの変更は「C-x RET f」³。

²M-x は Alt と x を同時に押す。

³C-x は Ctr と x を同時に押す、RET は Enter キー

7 L^AT_EX

7.1 L^AT_EX のインストール

L^AT_EX (TeX Live) のインストールは

Installing TeX Live over the Internet

<https://www.tug.org/texlive/acquire-netinstall.html> から

install-tl-windows.exe

をダウンロードして実行するのだが、今回はパソコンにインストール済みの L^AT_EX を使用し、後日、バージョンアップを行うことにする。

7.2 YaTeX のインストール

Emacs に yatex パッケージをインストールする。

Emacs を起動して

```
M-x package-install<RET>
```

```
yatex
```

設定ファイル init.el に以下を記述する [4]。

ソースコード 11: init.el(YaTeX の部分)

```
1 ;;
2 ;; YaTeX
3 ;;
4 (autoload 'yatex-mode "yatex" "Yet Another LaTeX mode" t)
5 (setq auto-mode-alist
6   (append '(("\\.tex$" . yatex-mode)
7             ("\\.ltx$" . yatex-mode)
8             ("\\.cls$" . yatex-mode)
9             ("\\.sty$" . yatex-mode)
10            ("\\.clo$" . yatex-mode)
11            ("\\.bbl$" . yatex-mode)) auto-mode-alist))
12 (setq YaTeX-inhibit-prefix-letter t)
13 (setq YaTeX-kanji-code nil)
14 (setq YaTeX-latex-message-code 'utf-8)
15 (setq YaTeX-use-LaTeX2e t)
16 (setq YaTeX-use-AMS-LaTeX t)
17 (setq YaTeX-dvi2-command-ext-alist
18   '(("TeXworks\\|texworks\\|texstudio\\|mupdf\\|SumatraPDF\\|Preview\\|Skim
     \\|TeXShop\\|evince\\|atril\\|xreader\\|okular\\|zathura\\|qpdfview\\|
     Firefox\\|firefox\\|chrome\\|chromium\\|MicrosoftEdge\\|microsoft-edge
     \\|Adobe\\|Acrobat\\|AcroRd32\\|acroread\\|pdfopen\\|xdg-open\\|open\\|
     start" . ".pdf")))
```

```

19 (setq tex-command "ptex2pdf -u -l -ot \"-kanji=utf8 -no-guess-input-enc -
    synctex=1\"")
20 ;(setq tex-command "lualatex -synctex=1")
21 ;(setq tex-command "latexmk")
22 ;(setq tex-command "latexmk -e \"\$latex=q/uplatex %0 -kanji=utf8 -no-guess-
    input-enc -synctex=1 %S/\" -e \"\$bibtex=q/upbibtex %0 %B/\" -e \"\$biber=q/
    biber %0 --bblencoding=utf8 -u -U --output_safechars %B/\" -e \"\$makeindex=q/
    upmendex %0 -o %D %S/\" -e \"\$dvipdf=q/dvipdfmx %0 -o %D %S/\" -norc -gg -
    pdfdvi")
23 ;(setq tex-command "latexmk -e \"\$lualatex=q/lualatex %0 -synctex=1 %S/\" -e \"
    \$bibtex=q/upbibtex %0 %B/\" -e \"\$biber=q/biber %0 --bblencoding=utf8 -u -U
    --output_safechars %B/\" -e \"\$makeindex=q/upmendex %0 -o %D %S/\" -norc -gg
    -pdflua")
24 (setq bibtex-command "latexmk -e \"\$latex=q/uplatex %0 -kanji=utf8 -no-guess-
    input-enc -synctex=1 %S/\" -e \"\$bibtex=q/upbibtex %0 %B/\" -e \"\$biber=q/
    biber %0 --bblencoding=utf8 -u -U --output_safechars %B/\" -e \"\$makeindex=q/
    upmendex %0 -o %D %S/\" -e \"\$dvipdf=q/dvipdfmx %0 -o %D %S/\" -norc -gg -
    pdfdvi")
25 (setq makeindex-command "latexmk -e \"\$latex=q/uplatex %0 -kanji=utf8 -no-guess
    -input-enc -synctex=1 %S/\" -e \"\$bibtex=q/upbibtex %0 %B/\" -e \"\$biber=q/
    biber %0 --bblencoding=utf8 -u -U --output_safechars %B/\" -e \"\$makeindex=q/
    upmendex %0 -o %D %S/\" -e \"\$dvipdf=q/dvipdfmx %0 -o %D %S/\" -norc -gg -
    pdfdvi")
26
27
28 ;(setq dvi2-command "rundll32 shell32,ShellExec_RunDLL SumatraPDF -reuse-
    instance")
29 (setq dvi2-command "\"C:\\Program Files\\SumatraPDF\\SumatraPDF.exe\" -reuse-
    instance")
30
31 ;(setq dvi2-command "texworks")
32 ;(setq dvi2-command "texstudio --pdf-viewer-only")
33
34 ;(setq tex-pdfview-command "rundll32 shell32,ShellExec_RunDLL SumatraPDF -reuse
    -instance")
35 (setq tex-pdfview-command "\"C:\\Program Files\\SumatraPDF\\SumatraPDF.exe\" -
    reuse-instance")
36
37 ;(setq tex-pdfview-command "texworks")
38 ;(setq tex-pdfview-command "texstudio --pdf-viewer-only")
39 (setq dviprint-command-format "powershell -Command \"& {\$r = Write-Output %s; \$p
    = [System.String]::Concat('\"\\\"\\\"', [System.IO.Path]::
    GetFileNameWithoutExtension(\$r), '.pdf', '\"\\\"\\\"'); Start-Process Acrobat -

```

```

ArgumentList ($p)}\")
40
41 (add-hook 'yatex-mode-hook
42 ;       '(lambda ()
43         #'(lambda ()
44           (auto-fill-mode -1)))
45
46 ;;
47 ;; RefTeX with YaTeX
48 ;;
49 ;(add-hook 'yatex-mode-hook 'turn-on-reftex)
50 (add-hook 'yatex-mode-hook
51 ;       '(lambda ()
52         #'(lambda ()
53           (reftex-mode 1)
54           (define-key reftex-mode-map (concat YaTeX-prefix ">") 'YaTeX-
           comment-region)
55           (define-key reftex-mode-map (concat YaTeX-prefix "<") 'YaTeX-
           uncomment-region)))

```

Emacs 起動時に Messages バッファに

```

1 ../../usr/Google/Emacs29home/.Emacs.d/init.el: Warning: (lambda nil \...)
  quoted with ' rather than with #' [2 times]

```

の警告が出た。

init.el(YaTeX の部分) の 42 行目と 51 行目の

```

1 '(lambda ()

```

をコメントアウトし、43 行目と 52 行目に

```

1 #'(lambda ()

```

とした [6]。

7.3 PDF ファイルビューア Sumatrapdf との連携

L^AT_EX で作成した PDF ファイルのビューアとして SumatraPDF を使う。

設定ファイル init.el(YaTeX の部分) で SumatraPDF を指定している。(init.el(YaTeX の部分) 29 行目)

7.3.1 SumatraPDF のインストール

SumatraPDF のインストールは

Download Sumatra PDF - a free reader

<https://www.sumatrapdfreader.org/download-free-pdf-viewer> から

SumatraPDF-3.5.2-64-install.exe

をダウンロードして実行する。

7.3.2 SumatraPDF の設定 (inverse search の設定)

PDF ファイルをダブルクリックすると Emacs で開いている TeX 文書の箇所にジャンプする機能 inverse search を設定する。

SumatraPDF の

menu-[設定 (S)]-[オプション (O)...]

の「逆順検索コマンドラインの設定」でおこなう。「逆順検索コマンドラインの設定」が表示されない場合は

menu-[設定 (S)]-[詳細設定 (A)]

で テキストファイル SumatraPDF-settings.txt を開いて

ソースコード 12: SumatraPDF-settings.txt

```
1 EnableTeXEnhancements = false
```

と記述されている部分を

ソースコード 13: SumatraPDF-settings.txt

```
1 EnableTeXEnhancements = true
```

に変更して保存する。

「逆順検索コマンドラインの設定」に

```
\[Emacs のインストール場所]\bin\Emacsclientw.exe --no-wait +%l "%f"
```

を記述する [3][5]。

7.3.3 Emacs 設定ファイル init.el の設定 (SumatraPDF を起動)

Emacs で C-c C-t P としても SumatraPDF が起動しない⁴。

ソースコード 14: init.el(YaTeX の部分)28 行目

```
1 (setq dvi2-command "rundll32 shell32,ShellExec_RunDLL SumatraPDF -reuse-  
instance")
```

をコメントアウトして

⁴旧バージョンの SumatraPDF では起動していた。

ソースコード 15: init.el(YaTeX の部分)29 行目

```
1 (setq dvi2-command "\"C:\\Program Files\\SumatraPDF\\SumatraPDF.exe\" -reuse-  
instance")
```

としたら起動した [7]。

ソースコード 16: init.el(YaTeX の部分)34 行目

```
1 (setq dvi2-command "\"C:\\Program Files\\SumatraPDF\\SumatraPDF.exe\" -reuse-  
instance")
```

もコメントアウトして

ソースコード 17: init.el(YaTeX の部分)35 行目

```
1 (setq tex-pdfview-command "\"C:\\Program Files\\SumatraPDF\\SumatraPDF.exe\" -  
reuse-instance")
```

にした。

7.3.4 Emacs 設定ファイル init.el の設定 (forward search の設定)

Emacs で表示している tex ファイルで C-c C-g とすると SumatraPDF で開いている PDF の箇所にジャンプする機能 forward search を設定する。

設定ファイル init.el に以下を記述する [5]。

ソースコード 18: init.el

```
1 ;; SumatraPDFとの連携 inverse searchの設定  
2 (require 'server)  
3 (server-force-delete)  
4 (server-start)
```

7.4 TeX ファイルを書く上での注意

7.4.1 jarticle の代わりに uarticle

設定ファイル init.el(YaTeX の部分) に次の記述がある。

ソースコード 19: init.el(YaTeX の部分)

```
1 ptex2pdf -u -l -ot \"-kanji=utf8 -no-guess-input-enc -synctex=1\"
```

-u は

use uptex class of programs (uplatex, euptex, uptex を使用する場合に指定)

というオプション。uplatex は platex の上位互換で uplatex では jarticle の代わりに uarticle を使う。

jarticle を使うと

! LaTeX Error: Encoding scheme 'JY1' unknown.

というエラーが出る。

7.4.2 文字コードは UTF-8

tex ファイルの文字コードは UTF-8 を使用する。文字コードの変更は「C-x⁵ RET⁶ f」で行う。

8 helm

8.1 インストールと設定

Emacs を起動して helm パッケージをインストールする。

```
M-x package-install<RET>  
helm
```

Emacs の設定ファイル init.el へ helm の最小設定を記述する。

ソースコード 20: init.el (helm の最小設定) [8]

```
1 ;; helm 最小設定  
2 (require 'helm)  
3 (helm-mode 1)
```

8.2 参考

8.2.1 旧 helm の設定ではエラー

Emacs26.3 の設定では

```
1 (require 'helm-config)
```

としていたが helm のバージョンアップに伴いエラーになったため

```
1 (require 'helm)
```

に変更した。[9] [10]

⁵Ctr と x を同時に押す

⁶Enter キー

8.2.2 最小ではない設定

ソースコード 21: init.el (helm の拡張設定) [8]

```
1 (require 'helm)
2 (require 'helm-config)
3
4 ;; The default "C-x c" is quite close to "C-x C-c", which quits Emacs.
5 ;; Changed to "C-c h". Note: We must set "C-c h" globally, because we
6 ;; cannot change 'helm-command-prefix-key' once 'helm-config' is loaded.
7 (global-set-key (kbd "C-c h") 'helm-command-prefix)
8 (global-unset-key (kbd "C-x c"))
9
10 (define-key helm-map (kbd "<tab>") 'helm-execute-persistent-action) ; rebind
    tab to run persistent action
11 (define-key helm-map (kbd "C-i") 'helm-execute-persistent-action) ; make TAB
    work in terminal
12 (define-key helm-map (kbd "C-z") 'helm-select-action) ; list actions using C-z
13
14 (when (executable-find "curl")
15   (setq helm-google-suggest-use-curl-p t))
16
17 (setq helm-split-window-in-side-p      t ; open helm buffer inside current
    window, not occupy whole other window
18     helm-move-to-line-cycle-in-source  t ; move to end or beginning of
    source when reaching top or bottom of source.
19     helm-ff-search-library-in-sexp    t ; search for library in 'require'
    and 'declare-function' sexp.
20     helm-scroll-amount                 8 ; scroll 8 lines other window
    using M-<next>/M-<prior>
21     helm-ff-file-name-history-use-recentf t
22     helm-echo-input-in-header-line t)
23
24 (defun spacemacs//helm-hide-minibuffer-maybe ()
25   "Hide minibuffer in Helm session if we use the header line as input field."
26   (when (with-helm-buffer helm-echo-input-in-header-line)
27     (let ((ov (make-overlay (point-min) (point-max) nil nil t)))
28       (overlay-put ov 'window (selected-window))
29       (overlay-put ov 'face
30         (let ((bg-color (face-background 'default nil)))
31           '(:background ,bg-color :foreground ,bg-color)))
32       (setq-local cursor-type nil))))
33
34
```

```

35 (add-hook 'helm-minibuffer-set-up-hook
36         'spacemacs//helm-hide-minibuffer-maybe)
37
38 (setq helm-autoresize-max-height 0)
39 (setq helm-autoresize-min-height 20)
40 (helm-autoresize-mode 1)
41
42 (helm-mode 1)

```

9 起動時の画面サイズをコンピューターごとに分岐させる

タワーパソコンの Emacs と小型ノートパソコンの Emacs を Google ドライブにある一つの初期設定ファイル `init.el` を使い、同じ設定で動かす。

ただし、2つのパソコンは画面サイズが違うため `system-name` 変数を使ってコンピューターのホスト名を取得し、コンピューターごとに起動時の画面サイズを切り替える [11]。

9.1 Emacs 設定ファイル `init.el` 内でのコンピューター名

小型ノートパソコン OneMix3Pro のコンピューター名は Windows のコントロールパネルで OneMix3Pro にしている。

Emacs26.3 ではコンピューター名が OneMix3Pro でも設定ファイル `init.el` 内ではすべて大文字にして

```
1 (if (equal system-name "ONEMIX3PRO")
```

としなければ判定できなかった [12] が

Emacs29.1 ではコンピューター名どおりに

```
1 (if (equal system-name "OneMix3Pro")
```

としなければならなかった。

9.2 Emacs 設定ファイル `init.el` への記述

Emacs の設定ファイル `init.el` に以下を記述する。

ソースコード 22: `init.el` (画面サイズ部分)

```

1 ;; 起動時のフレーム設定
2 (if (equal system-name "OneMix3Pro")
3     ; system-nameが小型ノートパソコンのコンピューター名"OneMix3Pro" のとき
4     ; 小型ノートパソコンOneMix3Po 8.4インチ用のサイズ
5     (setq default-frame-alist
6         (append (list

```

```

7      ;; 表示位置
8      '(top . 0)
9      '(left . 400)
10     ;; サイズ
11     '(width . 110) ;横
12     '(height . 33)) ;縦
13     default-frame-alist))
14
15     ; system-nameが小型ノートパソコンのコンピューター名"OneMix3Pro" ではないと
16     き
17     ;; タワーパソコン24インチモニター用のサイズ
18     (setq default-frame-alist
19           (append (list
20                   ;; 表示位置
21                   '(top . 0)
22                   '(left . 1140)
23                   ;; サイズ
24                   '(width . 91) ;横
25                   '(height . 70)) ;縦
26                   default-frame-alist))
27   )
28   (setq initial-frame-alist default-frame-alist)

```

10 Org-mode

10.1 インストール

Emacs を起動して, org パッケージをインストールする。

```

M-x package-install<RET>
org

```

10.2 設定ファイル init.el への記述

10.2.1 Org ファイルの場所

org ファイルを置く場所を指定する [13]。

```

1  ;; Org modeの設定
2  (setq org-directory "c:/usr/google/home/Org")
3  (setq org-default-notes-file "notes.org")

```

10.2.2 Org-capture の設定

C-c で Org-capture を呼び出す [13]。

開くファイルは notes.org。

```
1 ;; Org-captureを呼び出すキーシーケンス
2 (define-key global-map "\C-cc" 'org-capture)
3 ;; Org-captureのテンプレート (メニュー) の設定
4 (setq org-capture-templates
5   '(("n" "Note" entry (file+headline "c:/usr/google/home/Org/notes.org" "
6     Notes")
7     "* %?\nEntered on %U\n %i\n %a")
8   ))
```

10.2.3 メモ (notes.org ファイル) を見る設定

C-M-^で notes.org ファイルを開く [13]。

```
1 ;; メモをC-M-^一発で見るための設定
2 ;; https://qiita.com/takaxp/items/0b717ad1d0488b74429d から拝借
3 (defun show-org-buffer (file)
4   "Show an org-file FILE on the current buffer."
5   (interactive)
6   (if (get-buffer file)
7       (let ((buffer (get-buffer file)))
8         (switch-to-buffer buffer)
9         (message "%s" file))
10      (find-file (concat "c:/usr/google/home/Org/" file))))
11 (global-set-key (kbd "C-M-^") '(lambda () (interactive)
12                                   (show-org-buffer "notes.org")))
```

10.2.4 行を折り返す設定

デフォルトでは行を折り返さないなので、画面内で行を折り返すように設定する [13]。

```
1 ;;行の折返し (line wrapping) の設定
2 (setq org-startup-truncated nil)
```

10.2.5 Org-refile の設定

C-c C-w でアウトラインを別ファイルの見出しの下に移動する [14]。

```
1 ;;Org-refileの設定
2 (setq org-agenda-files '("c:/usr/google/home/Org"))
3 (setq org-refile-targets '((org-agenda-files :maxlevel . 3)))
```

10.2.6 ToDo の設定

Emacs org-mode を使ってみる: (5) TODO リスト [15] を参考に org-mode の ToDo を設定した。
C-c C-t で TODO 状態を変更する。

S-↑ または S-↑ (S は Shift キーを押しながら) で優先度を変更する。

```
1 ;; TODO状態
2 (setq org-todo-keywords
3       '(sequence "TODO(t)" "WAIT(w)" "|" "DONE(d)" "SOMEDAY(s)"))
4
5 ;; DONEの時刻を記録
6 (setq org-log-done 'time)
```

10.3 使い方メモ

10.3.1 コマンド

キー	説明
C-M-^	notes.org ファイルを開く
C-c c	Org-capture でメモを取る
C-c C-c	Org-capture でメモを保存して元のバッファへ戻る
C-c C-k	Org-capture でメモを捨て元のバッファへ戻る
Tab	アウトラインの開閉
M-RET	* (見出し アウトラインマーク) の挿入
C-c *	すでにある行を見出しにする 見出しを取る (トグル)
M ←	行頭に*があれば階層が1つ上がる
M →	行頭に*があれば階層が1つ下がる
M-S-c ←	行頭に*があればその見出し以下の階層が1つ上がる
M-S-c →	行頭に*があればその見出し以下の階層が1つ下がる
C-c C-t	TODO 状態を変更
S-↑	TODO の優先度変更
S-↓	TODO の優先度変更
C-c C-x C-w	サブツリー単位でのカット
C-c C-x C-y	サブツリー単位でのペースト
C-c C-w	アウトラインを他のファイルへ移動
C-c @	アウトラインを選択 (一般には C-jspace; C-n)
C-c C-n	次の見出しへジャンプ
C-c C-p	前の見出しへジャンプ
C-c ↓	次の段落へジャンプ
C-c ↑	前の段落へジャンプ
C-c C-c	見出しの行でタグを付ける
C-c / m	タグの検索
C-c C-o	リンクを開く, ファイルを開く, コマンド実行
C-c C-l	リンクを張る
C-c .	日付入力
C-c /	org-sparse-tree

C- は Ctrl キーを押しながら

M- は Alt キーを押しながら

S- は Shift キーを押しながら

RET は Enter キー

10.3.2 リンク

リンクの張りかたは [[リンク先][説明]]

リンク先は url, パスを含むファイル名, コマンドなど

説明は省略可

参考文献

- [1] GNU Emacs Manual(Japanese Translation)31.10.1 ダイアリーファイル
<https://ayatakesi.github.io/emacs/26.2/emacs-ja.html#Format-of-Diary-File>
閲覧日 2023 年 11 月 25 日
- [2] Emacs の package.el のリポジトリに MELPA を追加する
<https://monologu.com/add-melpa/>
閲覧日 2023 年 11 月 27 日
- [3] TeX Wiki Emacs
<https://texwiki.texjp.org/?Emacs#i028a48f>
閲覧日 2023 年 12 月 3 日
- [4] TeX Wiki YaTeX Windows での設定例
<https://texwiki.texjp.org/?YaTeX#n699538a>
閲覧日 2023 年 12 月 6 日
- [5] Emacs26.1 を入れてみる (その 15) Emacs で LaTeX
<http://miniature-schnauzer.blog.jp/archives/2945059.html>
閲覧日 2023 年 12 月 6 日
- [6] Out of Dimension Emacs 25.1 で起動時に警告が
<http://extra-vision.blogspot.com/2016/10/emacs-251.html>
閲覧日 2023 年 12 月 6 日
- [7] YaTeX から SumatraPDF を起動
<https://uep.media.hosei.ac.jp/yatex%E3%81%8B%E3%82%89sumatrapdf%E3%82%92%E8%B5%B7%E5%8B%95/>
閲覧日 2023 年 12 月 6 日
- [8] 初心者～初級者のための Emacs-Helm 事始め：前編
<https://qiita.com/jabberwocky0139/items/86df1d3108e147c69e2c>
閲覧日 2023 年 12 月 9 日
- [9] 更新した Helm が起動しない問題の解決法
<https://qiita.com/Tacumi/items/74e6e25551608f7ea052>
閲覧日 2023 年 12 月 9 日
- [10] Emacs で helm を新しくしたら設定でエラー発生
<http://miniature-schnauzer.blog.jp/archives/22784434.html>
閲覧日 2023 年 12 月 9 日

- [11] init.el の設定をコンピューターごとに分岐させる
<https://qiita.com/j8takagi/items/504ccb86921695bdec13>
閲覧日：2023 年 12 月 10 日
- [12] OneMix3Pro 導入記 Emacs 設定ファイル init.el の画面設定をコンピューターごとに分岐させる
<http://miniature-schnauzer.blog.jp/archives/5686472.html>
閲覧日：2023 年 12 月 11 日
- [13] モーレッツ! Org mode 教室 その 1: 素早くメモを取る
<https://www.mhatta.org/wp/2018/08/16/org-mode-101-1/>
閲覧日 2023 年 12 月 14 日
- [14] モーレッツ! Org mode 教室 その 2:まとまった文章を書く
<https://www.mhatta.org/wp/2018/08/18/org-mode-101-2/>
閲覧日 2023 年 12 月 14 日
- [15] 屯遁のパズルとプログラミングの日記
<https://tamura70.hatenadiary.org/entry/20100207/org>
閲覧日 2023 年 12 月 17 日

※ MARCO のサイトへ
<http://minischna.starfree.jp/>